

C.C.O.M

広島 の 生協

平和とより良き生活のために

MAY.2018
VOL.67

広島県生活協同組合連合会
発行 2018年5月15日



特集：「地域を支える」

特集：日立造船因島生協「移動店舗」… 1-4

島の生活を支える

「必要が支える…」担当者と利用者

特報：ヒバクシャ国際署名広島県推進

連絡会発足集会 …………… 5

特報：福山市立大学生協誕生 …………… 6

食堂・売店オープン

トピックス① …………… 7

・ネパールからの研修視察

・竹原生協まつり

トピックス② …………… 8

・訪問看護ステーションコープはつかいちオープン

・福山医療生協介護施設オープン

トピックス③ …………… 9

・消費者被害防止セミナー

・初級職員研修会開催

・映画「おかあさんの被爆ピアノ」協賛のお願い

事務局だより …………… 10

・広島県情報コーナー

・消費者ネット広島情報

・理事会報告・組織平和委員会報告

『ヒバクシャ国際署名』に思いを寄せて …… 11

第1回：広島弁護士会前会長

下中奈美氏

・編集室から

【表紙写真】

山口県防府市小野地区
佐波川の「鯉のぼり川
流し」(5月3～5日)。
近年は評判を呼んで、
1日当たり2千人の人
で賑わう。本来空を泳
ぐ鯉のぼりが、水中を
泳ぐ様は、中国の龍門
伝説「登竜門」を想像
させてくれる。

特集

島の生活を支える

日立造船因島生協移動店舗



因島ポートピアはぶ（多目的ホール）で開かれた、日立造船因島生活協同組合「第17回ふれあいの会総会」。写真は、開催前の受付風景。



第17回ふれあいの会総会で
来賓を代表して挨拶する高田
公喜広島県生協連専務理事

総会会場の片隅にいて感じたことは、この総会が、どこにもない『連帯感』と会場の参加者の『誇り』のようなものを醸し出していることだった。あとの「移動店舗」の取材で分かるのだが、移動店舗を支えている要因は、ここに在った。

「はじめに神野孝光理事長が、出席者に心からの感謝の言葉を述べ、続いて、広島県生協連の高田公喜専務理事が来賓を代表して「県連の50年は、日立造船因島生協のお蔭」といった内容の祝辞を述べた。

開会前、因島土生の「ポートピアはぶ」の多目的ホールの入口受付は、「お久しぶり…」、「お元気で」といった親しみのこもった挨拶が飛び交い、会場の椅子には多くの組合員が座り、ホールは独特の連帯感にあふれた熱気に包まれていた。午前10時20分、司会者の開会の案内でふれあいの会総会が開会する。はじめに神野孝光理事長が、出席者に心からの感謝の言葉を述べ、続いて、広島県生協連の高田公喜専務理事が来賓を代表して「県連の50年は、日立造船因島生協のお蔭」といった内容の祝辞を述べた。

2018年4月11日（水）、「移動店舗」の取材前に、日立造船因島生活協同組合の第17回「ふれあいの会総会」に出逢うことが出来た。

生協を支える熱い思いが…



日立造船因島生協 第17回ふれあいの会総会で挨拶する神野孝光理事長

日立造船因島生協の移動店舗



思い思いに商品を選ぶ組合員さん達。ほとんどが高齢の方だ



音楽が聞こえると、手押し車を押す組合員さんが集まって来る



店舗の左半分は、新鮮な魚や、お弁当・総菜で占められている



一つの場所で店開きすると4、5名の組合員さんが駆けつける



移動店舗の担当者は、買い物アドバイザーでもある



毎日移動店舗が来るわけではないので、真剣に商品を選択する

「必要」が支える…

「少子高齢化」が取り沙汰されて以来、地域の人々の「買い物」に関する問題も大きな関心となった。そして生まれたのが「買い物難民」という言葉だ。この言葉が誕生した時には、既に地域で暮らす人々は、買い物に難渋していたのである。しかも、離島や山間部だけでなく、都市部郊外の「団地」の人々も、出店していたスーパーなどの撤退によって、日常の買い物に困難を期していたのである。

日立造船因島生協は、瀬戸内海に浮かぶ因島（広島県尾道市）を中心に因島に連なる弓削島や生口島などの島々で、店舗や共同購入（宅配）、葬祭事業などを展開する職域生協である。

この日立造船因島生協が、組合員の買い物の不便さを考慮して導入したのが「移動店舗」だ。広島県でも、他の生協（生協ひろしま）がすでに移動店舗を導入しているが、日立造船因島生協の移動店舗は、ひと味違うのである。

「この生協の移動販売車の、どこが違うかというと、まず、組合員の『どうしても…』という『必要』が生んだもので、業績も採算ベースに乗っていることだ。しかも、店舗自体を構成する車両は「軽トラック」。当然、車が大きければ投下資本も大きくなる。軽車両は、狭い島の道路を考慮したこともあるが、この大きさが、島の購買者（組合員）の生活スケールにあっているのだ（搭載品目数 約230）。そして、それが、採算ベースを容易にしている。現在、日立造船因島生協の移動店舗は2台、（もう1台導入予定）、この2台で、先に紹介した島々を駆け巡り、人々の生活を支えている。

簡単に「移動店舗」というが、生協にとって、1台導入することは、車両の整備、専任の担当者と、資本投入は売上コストに直接響くのである。だが幸いなことにこの移動店舗は、冒頭の総代会で紹介した組合員の『連帯感』と自分たちの『誇り』によって、自分達の力で生活を支える「移動店舗」となっており、島の人たちのくらしを、陰ながら支える大きな力となっているのである。

日立造船因島生協の移動店舗

組合員さんと接するのが好きなんです。



「外に出て、お客様に接するのが好き」という、安藤三喜さん。接客姿が生き生きとしている

水曜日、担当の安藤三喜さんの運転する移動販売車が生口島の原地区を訪れる。場所は旧小学校の近くの個人の敷地の空きスペース。訪問の音楽を流しながら移動店舗が停車。車を止めると安藤さんは、てきぱきと車の左右と後の側板をあげ、店開きする。すると、周辺から手押し車を押しながら、また、手に買い物袋を持った組合員さんが車に近づいて来る。そして、店舗に備え付けの籠を抱えて車の棚の品々を物色しながら、籠の中に入り用の品を入れていく。ここでのお客様は4名、それぞれ買い物を済ませると、担当の安藤さんに籠を渡して清算する。4人の購買量は、3千円〜5千円、決して少なくはない。この一人当たりの1回の購買量が、日立造船因島生協の移動店舗が採算ベースにある一つの要因となっている。しかも、それは組合員さん自らが必要として買ったものだ。ということは、移動店舗が島の人たちの生活を、陰で支えているということにもなる。組合員さんの品定めの間を縫って、安藤さんは、お客様に品物の説明をし、お客さんからの質問を受け丁寧に応対する。その光景は、販売担当の人と組合員さんが、心から打ち解けた様子がうかがえ、微笑ましくもある。

移動販売車が積んでいる商品は生鮮品、食品から日用品にいたるまでさまざま。車が軽トラックだけに、積める量は限られている。それだけ、担当者がスペースの効率を考えることが求められる。同行の日立造船因島生協岡野龍広常勤顧問は、「島の生活で、何が求められているかを根気よく調べ考え、そして商品に反映する。もちろん価格もです。」と説明してくれる。「求められる商品を、生活者の身近に届ける」移動店舗それを商品企画づくりの部署も一緒に支えている。

移動店舗担当の安藤三喜さんは、「私は、外に出てお客さんに接するのが好きなんです。だから、出来るだけお話をして、組合員さんの要望に応える努力をしています。」とひと言。この安藤さんの言葉に、移動店舗の人気の秘密があるようだ。

日立造船因島生協の移動店舗



「こうやって買い物に出て、ひと息しながらお日様の光を浴びるのが楽しみ。」という岡野由美子さん（81歳）

助かります。いつも楽しみにしています。

手元に安藤さんからいただいた『移動販売車運行表』（平成30年4月2日より実施）というのがある。運行表によると、『月曜日コース』…高根島・生口島（州江・西浦・田熊・原）、『火曜日コース』…神田・家老渡・西浦・小田浦、『水曜日コース』…原・高根島・州江、『木曜日コース』…小田浦・西浦・家老渡・神田、『金曜日コース』…高根島・州江・西浦・田熊・原と、週5日間の移動店舗運行スケジュールが詳細に書き出されている。細かく観ると、「旧小学校 延命寺 ○○○様前」、「お好み焼 ビッグロード駐車場」と、実に詳しく場所と時間が記されている。つまり、日立造船因島生協の営業エリアである因島・井口島・高根島・弓削島の買い物困難地区をくまなく網羅している。

移動販売車の利用者の一人は、「私たち高齢者には、近くまで商品を届けて、話を聞いてくれる生協の職員さんがいてくれる。幸せです。本当に助かっています」と話してくれる。

上の写真の人は、生口島原地区の岡野由美子さん（81歳）。主人に先立たれ、現在は、一人暮らしだという。今日水曜日午前中は、移動販売車の来る日。移動販売を心待ちにして出てきた。そして、担当者の安藤さんというひとと話をしながら買い物。手押し車いっぱい商品を買入れ、帰り道の畑の石垣に腰掛けて日向ぼっこをしている。「週2回の移動販売の来る日が楽しみです。買い物をしたあとは、こうして日向ぼっこをするんです。家の外に出て、買い物をして、そして皆さんと話ができる…」と、穏やかに話してくれる。

同じ原地区の次の販売地は、地区のお好み焼きの店の前の空地。到着と同時に5人近くの人が車に寄ってきて、目的の品物を買う。その光景は、人の交流があつてあたたかく懐かしい…。日立造船因島生協『移動販売車』。岡野さんの例にみるだけでなく、島の生協組合員の生活を、心あたたかく支えている。（文責 Y）

ヒバクシャ国際署名 広島県推進連絡会発足集会

ヒバクシャ 国際署名広島 県推進連絡会 発足集会開催 !!

核兵器廃絶の ための国際署 名はオール・ ヒロシマで !!



これまでの経緯と今後について説明する前田事務局長



開会の挨拶を述べる坪井直理事長



会場を埋め尽くした関係者と詰めかけた報道陣



メッセージを述べる下中前広島弁護士会会長



メッセージを述べる小溝理事長



来賓を代表して挨拶する松井広島市長



来賓を代表して挨拶する湯崎広島県知事

「国際署名の重要性は増している。核兵器のない平和な国際社会が実現するよう、県としても力を尽くす。」と述べ、広島市の松井一實市長は「ピンチをチャンスに変える絶好のタイミング。平和首長会議でも、国が

席。出席者の湯崎英彦知事は、「国際署名の重要性は増している。核兵器のない平和な国際社会が実現するよう、県としても力を尽くす。」と述べ、広島市の松井一實市長は「ピンチをチャンスに変える絶好のタイミング。平和首長会議でも、国が

3月19日（月）、核兵器廃絶に向けて国内外で賛同の声を集める「ヒバクシャ国際署名」を広島県全域で推進するための連絡会がスタートした。広島市中区の平和記念資料館で開かれた集会には、77の団体代表者ら110人が集まり、多くの報道陣も駆けつけた。



メッセージを述べる岡村副会長



閉会の挨拶を述べる佐久間理事長

集会の冒頭で広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長は、「少々の意見の違いを乗り越え、核兵器廃絶だけではなく、戦争そのものについて考えないといけない。」と連絡会の意義を訴えた。

集会には県内市町の首長らも出席。出席者の湯崎英彦知事は、「国際署名の重要性は増している。核兵器のない平和な国際社会が実現するよう、県としても力を尽くす。」と述べ、広島市の松井一實市長は「ピンチをチャンスに変える絶好のタイミング。平和首長会議でも、国が

模範を示してはどうか、と問います。」と強調。

その後、ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会準備会のこれまでの取り組みと今後を、前田耕一郎事務局長が紹介。また、（公財）広島平和文化センター小溝泰義理事長、広島弁護士会下中奈美前会長、広島県協同組合連絡協議会岡村信秀副会長が、取り組みへの支援メッセージを述べました。

3月1日現在まで、集まった署名は39万6838筆。連絡会には、被爆者団体をはじめ、市民グループや労働組合、広島弁護士会などが加わっている。今後、会への賛同を呼びかけ、2、3カ月に1回のペースで街頭署名にも取り組む予定だ。

会の終わりで、もう一つの広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長は、「核の傘」は、日本を守ってくれるのか、そうは思わない。核のない平和な世界を呼びかけよう。」と訴えて、集会は幕を閉じた。（文責 Y）

福山市立大学生協のお店誕生！

学生の強い味方！ 福山市立大学生協の お店がオープンしました！



オープニングセレモニー（左から2番目が正保正恵理事長）



オープニング記念セールのお知らせ



ショップでのレジ清算の様子（組合員証で電子マネー払い）



生協・共済加入受付カウンターの様子



出食レーンの様子



食堂ホール内の様子



食堂のメニュー

食堂メニューは週替わり
食堂は中四国の大学生協で共同開発したメニューを週替わりで提供。4月は「入学・進級おめでとうフェア」と銘打って人気の定番メニューを出し、ポスターやメニューカードの前で「美味しそう」という会話が弾んでいます。ショップは手狭ですが、食品類を中心に勉学に必要な文具や就活書や語学書など

待ちに待った食堂オープン
福山市立大学生協は2年以上に及ぶ設立運動が実を結び、昨年12月に創立総会を開催、今年1月に設立認可を得ました。
この春は「店舗オープン」「在籍する学生や教職員への加入の推進」「入学する新入生への生協加入と学生総合共済と大学推奨パソコンなどの提案」という3つを同時並行で進めるといふ、全国の大学生協の中でもかなり特別な新学期となりました。
店舗は、昨年夏にはそれまで食堂・売店を営業してきた業者が撤退。半年以上昼食を食べるにも事欠く状況でした。それだけに在校生や教職員にとって4月3日のプレオープンには待ちに待った日となり、6日のオープニングセレモニーでは、田丸学長や保護者組織である教育振興会の渡辺会長から祝辞をいただき、多数の学生教職員と共に門出を祝いました。

の書籍も展開しています。店舗で働く職員も全員が新採用で、初めてのことはありますが、店長を中心に元気に明るく対応しています。

生活実態アンケートの成果
3月には生協主催で「入学準備説明会」を7回開催し、新入生と保護者約130組が参加。新入生259名のうち、その半分の方に参加いただきました。初めての取り組みとしては大成功でした。生協設立運動の中で学生が「福山市の生活実態」アンケートを実施し、その結果を説明会の中で「どのような学生生活をしているか」や「先輩学生がパソコンを選ぶ理由」等のリアルな実態や声をお伝えし、「だから生協がサポートします」と提案しました。設立運動を学生が主体的に取り組み、「なぜ生協が必要なのか」を裏付ける調査が役立ちました。そうした取り組みの結果、新入生の生協加入率90%、パソコン購入率70%などの成果を達成しました。

小規模キャンパスのため、「生協加入して利用」という根本が肝心であり、まずは加入者を増やすこと、そして一人ひとりの利用をいかに高めるかが今後の課題です。福山にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。
（文責：福山市立大学生協・広島大学生協専務理事 吉山功二）

（文責：福山市立大学生協・広島大学生協専務理事 吉山功二）

竹原生協まつり ネパールからの研修視察

第36回 生協まつり開催

竹原生協

昨年10月22日に開催を予定していた生協まつりは、悪天候のため延期となっていました。組合員さんへの日頃の感謝を込め3月25日に扇町店駐車場にて開催しました。

当日は、春とは思えない暖かさで雲ひとつない好天候に恵まれ、安芸津万葉太鼓のオープ

ニング演奏を皮切りに、たくさんの方の来場者で賑わいました。ステージでは、歌ありダンスありと盛りだくさんの演出により組合員の皆さんに楽しんでいただき、毎年恒例の青果・鮮魚の大特売をはじめ、生協職員が調理した格安フードも大盛況。ガス器具の展示販売・水回りリフォーム展示相談会なども参加者に大いに喜んでいただきました。

今年もたくさんの方の組合員さんの笑顔に触れ、開催を支えた実行委員や職員共々、今後の組合員活動に大きな力をいただいた1日となりました。

(報告)竹原生協理事長 賀楽幸利



職員も大張り切り



オープニングのテーブルカット



安芸津万葉太鼓のオープニング演奏

はるばるネパールから研修視察 シュリステイ・パンタさん



広島医療生協 青木理事長との懇談

パンタさんは、パント医師が考案した『自らお金を出して自分の健康を守る(セルフヘルプ『自助』』という考えを受け継ぎ、各国の医療保障制度を現在学んでいます。今回の訪問は、日本の『国民皆保険』や『共済』『協同組合』など、誰もが医療が受けられるしくみについて学びたい、日本での研修をパンタさんが、熱望したものです。

研修では、パンタさんは、日本の『国民皆保険』や『共済』の仕組みを、熱心に理解することに勤めていました。ネパールの医療・福祉も『相互扶助』『平等な権利』『出資』『運営』『利用』など、日本と共通する点も多くあります。今回の研修では、医療・福祉の発展について、お互いに学び合うことができました。

(報告) 広島県生協連
山下知子



生協ひろしま小規模多機能ねぎ畑の皆さんと一緒に

【研修日程】

- 3月7日(水) ・広島医療生協 視察・懇談
- 3月8日(木) ・生協ひろしまについて・施設視察
- 3月9日(金) ・全労済の仕組みと制度について

訪問看護施設・介護施設 オープン

訪問看護ステーション コープはつかいちオープン

生協ひろしま福祉事業所移転並びに広島中央保健生協訪問看護ステーションコープはつかいち開所式
（2生協3事業所が同居して、医療と介護のサービスを一体的に提供します）



右から生協ひろしま横山専務理事、中田所長、中央保健生協 高橋所長、盛谷専務理事

生協ひろしまと広島中央保健生協が、同じフロアの中で訪問介護と居宅介護支援（生協ひろしま）、訪問看護（広島中央保健生協）の3つの介護と看護の事業所を運営する事になり、3月28日にその移転・開所式が行われました。

開所式には両生協の専務理事をはじめ関係者、来賓の広島県生協連高田公喜専務理事、廿日市市社協谷口浩示事務局長、広島医療生協齊藤孝司専務理事、広島民医連西村峰子事務局長が出席し、地元居宅介護支援事業所からも参加がありました。式典では、主催者の両生協専務理事と来賓代表の広島県生協連専務理事から挨拶があり、生



3事業所のフロア。手前から訪問介護、居宅介護支援、訪問看護

協ひろしまの福祉事業所（訪問介護・居宅介護支援）と中央保健生協の訪問看護ステーションの所長からの決意表明がなされました。

決意表明は、この間進めている購買・医療の3生協連携に触れながら、地域や組合員から見たら生協は同じであり、地域に住み続けたいという組合員のニーズにこたえる為には、両医療生協と生協ひろしまの事業連携が重要である。今回の取組みは全国的にも例が無く、画期的な内容で、是非頑張ってください、と決意が述べられました。

（報告）広島県生協連 岡崎 晃

地域に根ざした福祉の拠点 在宅介護センター城北を開設！

福山医療生協はこの度、城北診療所の近隣に「在宅介護センター城北」を新築しました。この地域は、閑静な住宅街の中で、福山医療生協発足の場所ということもあり地域の方の心の拠り所として期待されています。

竣工式には、近隣の2つの公民館長、民生委員、連合町内会長などが列席し、地域からの期待の大きさが伺えました。

北棟は1階がデイサービス、2階は居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、ヘルパーステーションが同じフロア内にあります。南棟は看護小規模多

機能となっています。また、重度の方や医療的ケアの必要な方の要求にも応えられるよう、スペースを最大限利用した広々とした設備となっています。施設は環境的にも落ち着いており、

内覧会には多くの地域の方や利用者の方が訪れました。また各階に多目的スペースがあり、相談から医療・介護サービス、そして組合員活動の連携も図りやすく、誰でも気軽に寄れる場所になっています。

また、近隣の空き施設で、子どもから大人まで自由に出入りできるオープンな施設に、との構想もあります。今後、城北診療所を中心とした日常生活圏域内の総合的なサービス提供が展開されることとなります。

3月14日竣工式・内覧会から
（報告）広島県生協連 山下知子



在宅介護センター城北外観（奥が北棟、手前が南棟）



デイサービスフロアの様子



城北診療所 宅和直樹所長の挨拶

初級職員研修会 消費者被害防止セミナー 協賛のお願い

グループ討論「SDGs～自分に何ができるか考えてみよう」



初級職員研修会を開催！

SDGsを学習しました

広島県生協連は4月6日、会員生協の初級職員（入協1年（3年）を対象にした初級職員研修会を開催しました。県内の生協で働く仲間として親睦を図る場の提供は年々好評を得ており、今回は過去最大の7生協（県外2生協含む）95名のフレッシュな職員の参加がありました。

午前中は広島県生協連 高田公喜専務理事、盛合博文常務理事より生協の歴史や取組み、社会的な役割などについての講義がありました。午後からは平和公園内の碑めぐりと、広島県被団協の箕牧智之副理事長より被爆体験を聴く平和学習に続き、ひろしまNPOセンターの松原裕樹事務局長を講師にお招きしてSDGsの学習をしました。

SDGsとは国連サミットにより採択された国際社会における持続可能な開発目標であり17の目標を設定しています。特筆すべきは「誰一人取り残さない」社会の実現を目指していることで、日本生協連の提唱を受けて広島県生協連でも推進していく予定です。

参加者は、SDGsについて理解を深める中で、自らの仕事への取組みを考え、仲間との交流や学び合いを通して生協職員としての意欲を高めました。今後も内容を充実させて、仕事に生かしていただけるようなプログラム作りをしていきたいと思っています。

（報告 広島県生協連 上原恵美子）

新手法の詐欺から被害防止！

2017年度消費者被害防止セミナーを開催しました。

広島県生協連・広島県消団連



佐藤百實犯罪情報官

講師 広島県警察本部生

3月12日、広島県消費者団体連絡協議会・広島県生活協同組合連合会の共催で、メルパルク広島において、「2017年度消費者被害防止セミナー」を開催し、7つの消費者団体から36名が参加しました。

2017年の広島県の消費者被害は405件（前年比57件増）。被害件数は増え、被害金額は減少したものの、10億円を超える被害が発生しています。今回開催のセミナーは、広島県

警察本部生活安全部減らそう犯罪情報官佐藤 百實（ももみ）氏を講師に迎え、ますます手口が巧妙化していく「特殊詐欺の現状と対策」について学びました。

参加者からは、「新しい手法の詐欺の例がわかって良かった。」などの意見がありました。「地域に伝えることが必要、高齢者はネットなどを見ないので情報をどう伝えるか考える必要がある。」という感想も聞かれました。

続いて、広島県消団連構成団体による活動報告と交流をおこないました。

（報告 広島県生協連 森島哲司）

映画「おかあさんの被爆ピアノ」協賛のお願い

72年前に原爆の惨禍にあって壊れながらも焼け残ったピアノが、現在6台あります。広島のピアノ調律師・矢川光則氏は、被爆したピアノを持ち主から託されて修理、調律して、2005年頃から被爆ピアノコンサート活動を行っています。そういった活動を通じて、核兵器廃絶と平和への想いを次世代に伝えようと五藤利弘氏が脚本・演出・監督をされます。広島県生協連では、この映画の趣旨に賛同し、当生協連のポスト50周年記念企画として位置付け、次世代に伝えたい映画として撮影時等での取り組み支援を行いたいと思います。広島での撮影は、2018年秋に撮影を開始し、2019年2月完成予定です。全国の一般上映にさがけて、広島で上映予定です。

皆様に、映画のご協賛を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆ご協賛金について

- ・個人 1口5千円から……1口につきお一人様エンドロールにお名前を記載させていただきます。
- ・団体 1口5万円から……協賛にご協力いただいた団体様に一口につき2名様を完成披露試写会にご招待・エンドロールに団体名を記載・パンフレット2冊贈呈予定させていただきます。

◆ご協賛金のお送り先

呉信用金庫 広島支店
普通口座1043233
映画「被爆ピアノ」
制作委員会
代表 五藤 利弘



被爆ピアノ

広島県庁から 消費者ネット広島 理事会・委員会報告

広島県庁から①

広島県公式SNSと

ホームページで

最新情報をチェックしよう！

広島県では、フェイスブック、ツイッターに加え、ライン@アカウントを開設しました。これらのSNSから最新の県政情報や防災情報、イベントや観光情報などを発信します。

ご登録いただき、ファンになってください！



また、3月にはホームページを6年ぶりにリニューアルしました。

スマートフォンやタブレットからも見やすく、操作しやすいデザインに一新しました。是非、ご覧ください！



●問合せ／広島県総務局広報課
☎082 (513) 2378

消費者ネット広島情報

消費者トラブルの手口を知ろう⑦

近年、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

商品が届かない！ ネットでの買い物は慎重に

(2016年12月21日 独立行政法人国民生活センター 見守り新鮮情報第269号より)

【事例】

孫娘が欲しがっているランドセルをインターネットで探したら、定価6万円のところ半額で販売しているサイトを見つけ、希望の色もあったので申し込んだ。翌日、受注メールが届き、振込先口座が記載されていたので振り込んだ。振り込み確認後、1週間で届くはずが1カ月経っても届かない。その後、メールや申し込みフォームから催促をしても返信がない。サイトに

も住所、電話番号は書かれていない。詐欺サイトだったのか。(60歳代 男性)

ひとこと助言

★ネットで購入したが、商品が届かない、連絡が取れないなど実体のない詐欺的なサイトで購入したことによるトラブルが多く見られます。ネットでの購入前には事業者の所在地、電話番号などを必ず確認しましょう。

★商品が届く前に代金を支払ってしまったと、トラブルがあった場合に被害金を取り戻すことが難しくなります。前払いによる購入は十分注意しましょう。

★インターネット通販では、サイト内に事業者の名称、所在地等を表示しなければなりません。それらの表示のないサイトでの買い物はやめましょう。

★分からないことや不安なことがあったら、お住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください。(消費者ホットライン188)。

理事会・委員会報告

第6回理事会報告

開催日 4月26日

出席理事 18名中12名出席

決議事項

1. 他団体の公職承認の件

協議事項

1. 2018年度通常総会(代議員数及び役員推薦委員会で決定した役員候補者の確認議案提案、当日運営)

2. 映画「おかあさんの被爆ピアノ」の協賛と支援

3. 井伏鱒二先生生誕120周年記念「黒い雨」プロジェクトへの協力

報告事項

1. 広島県生協連創立50周年企画に関する報告

2. 生協の「地域連携と事業活動の推進」に関する2018年度計画

3. 2018ピースアクションinヒロシマ実行委員会報告

4. ビバクシヤ国際署名広島県推進連絡会の取り組み報告

5. 2018年度平和活動キックオフ集会開催

第1回組織平和委員会報告

開催日 4月13日

主な協議・報告事項

・2018年度組織平和委員会方針

・2018平和の取り組み

・子どもの貧困問題に関する政策(案)

・内閣府消費者委員会公共料金等専門調査会報告



中国地方弁護士会連合会理事長

下中 奈美
しもなか なみ

●プロフィール

1957年、広島に生まれる。1983年京都大学法学部卒業。1989年広島弁護士会登録。恵木尚法律事務所所属。1996年下中奈美法律事務所開設し、現在に至る。2004年、広島弁護士会副会長。2005年から2年間、広島簡易裁判所調停官。2017年度広島弁護士会会長。2018年度中国地方弁護士会連合会理事長。2017年より「性被害ワンストップセンターひろしま」理事。

「ヒバクシャ国際署名」に思いを寄せて

地域から地域へとつながって いく、そんな運動にできれば…

昨年見た映画に、1953年公開の「ひろしま」、1959年公開の日仏共同合作「ヒロシマ・モナムール」、そして、2016年公開のアニメ「この世界の片隅に」があります。これと並行して、ヒロシマ・モナムールに出演したエマニュエル・リヴアの写真集（1958年の広島市の街の様子を撮影）、広島県立美術館が刊行した図録「広島から広島へ」を読み、被爆前後の人々の暮らしの激変、人々の苦闘と悲痛な思いを感じてきました。

それぞれの映画は、被爆の悲惨さをそれぞれの形で描写して

いると思います。とりわけ、映画「ひろしま」の中で、原爆孤児たちが、被爆死した方の頭蓋骨を米兵に売る場面は、衝撃でした。同じような場面は、故中沢啓治氏の「ヒロシマの空白」（1987年8月15日刊）にもあります。復興大博覧会が開催された年のこととされていますので、1958年でしょうか。佐々木禎子さんがモデルである「原爆の子の像」が完成した年です。中沢氏は、戦後の復興の中で、「広島市表面は一見きれいに覆われていくが、裏側ではどろどろした生きている闘いがつづいていく」と書いています。「平和記念都市建設が進むと同時に

暴力団抗争があった」「広島は、戦後の一時期、少年犯罪件数が全国一であった」等の指摘をして、そこかしこに「原爆の後遺症」があったと記載されています。核兵器は、夥しい人の命、大切な住まい、愛する家族を奪い、逃げ延びた人にも追い打ちをかけるように後障害を起こしました。これらは、長く心理的・社会的・経済的な余波を残してきたと思います。



広島県被団協の坪井直理理事長は、ヒバクシャ国際署名の広島県推進連絡会の発足に当たり、「核兵器だけでなく戦争をなくすこと」の意義を述べられました。私も同じ思いです。現在、冷戦が終わっても核兵器がなくならない理由は、世界各地で起きている紛争解決や他国への介入を、武力で行おうとすること

に根本原因があるのではないのでしょうか。このようなことは、結果的に、欧米等から派遣された兵士たちの命と健康を奪っています。たとえば、アフガン戦争でもイラク戦争でも数千人の兵士が犠牲になっています。攻撃された紛争国には、名前さえ関心を持たれないより多くの犠牲があるでしょう。

戦争をなくすという根源的な願いのため、人類の未来のため、まず、大量、無差別、残虐な殺傷力を持つ核兵器が違法であり、核兵器を禁止すべきであるという国際的な合意を目指したいと思います。

かつて、「核兵器の使用・威嚇の違法性」について国際司法裁判所（ICJ）に勧告的意見を求めた際、スリランカの裁判官のウイラマントリー氏は、「市民は国際法の主人公」「市民の声はICJの判断に大きく貢献した」と語られました。核兵器の犠牲性になるとしたら、それは、ほかならない一般市民です。この署名運動を市民一人一人の足元から行い、地域から地域へとつながっていく、そんな運動にできればと願っています。

【編集室から】

5月は鯉のぼりの季節である。誰が考えたの知らないが、五月晴れの空に、黒（父）、赤（母）、青（子供）の3色の鯉のぼりが泳ぐ姿は、勇壮で、家族の仲睦まじさを思わせて、心が和む。鯉のぼりを飾る風習は、江戸時代に始まったとされ、子どもの健やかな成長を願って端午の節句に飾る。中国の故事の中に、流れの激しい滝（竜門の滝―中国の山西省河津市にある山峡―黄河の上流）を登りきった鯉が龍となり天に登ったという伝説がある。そのことから、子どもの出世を願っても鯉のぼりを揚げるのだ。若葉の季節の新鮮な空気を体の中にいっぱい含んで泳ぐ鯉のぼりも見事だが、鯉のぼりを川の中で泳がせるという発想もなかなかのものだ。山口県防府市の佐波川では、空に泳ぐ鯉のぼりを、川の流れて泳がせている。五月の空の青を水に映し込んだ清流に、身体全体を膨らませて、水中をくねる鯉のぼりは、竜門をめざす鯉を彷彿とさせて、神話の世界へと見る者を誘う。（Y）

平和とよりよき 生活をめざして



広島県生活協同組合連合会

〒730-0802 広島市中区本川町 2-6-11
第7ウエノヤビル 5F
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp